

# ボールの特性レポート BALL REPORT



ボール名 <b>フレックス・ゾーンソリッド</b>	投球者 <b>徳江 和則</b>	センター <b>平和島スターボウル</b>
RG <b>2.520</b>	△RG <b>0.040</b>	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール

**テストボール：フレックス・ゾーンソリッド**

フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  4 インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤

**比較対照ボール：フレックス・ゾーン**

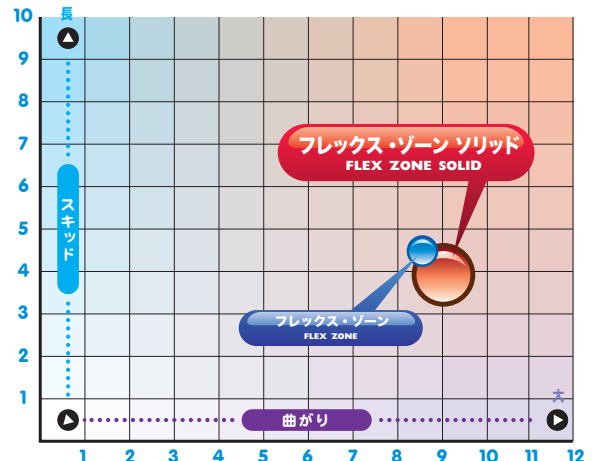
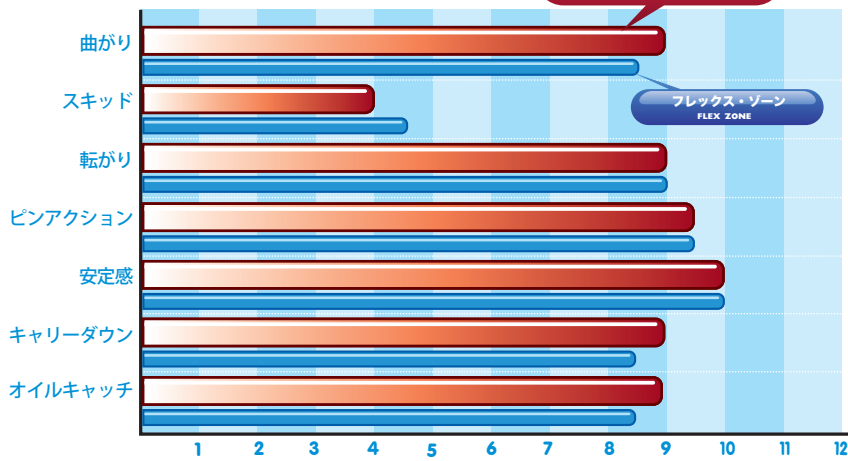
フレアーの幅  インチ

PAPからピンとの距離  4 インチ

表面加工  
 箱出し状態  
 加工  
 ペーパー  
 ポリッシュ  
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



## ボールの評価

PRO-amブランドにおいてミディアム系で高い完成度を誇る「FLEX ZONE」は、これまでHybridモデルのみの展開ながら、その絶妙なバランス性能によって支持を集めた存在でした。スキッドとキャッチ、そしてバックエンドの動きがバランスよく融合されたその性能は、“扱いやすさを軸にした実戦型ボール”として確固たるポジションを築きました。今回新たに登場するSolidバージョンは、そのFLEX ZONEの持ち味を継承しながら、より明確なレーンコンタクト性能を付加した進化モデルと捉えることができます。一般的にSolidカバーは、オイルに対する強い摩擦力によって手前からのキャッチが強調される反面、動きが鈍くなりやすい傾向がありますが、本作においてはそのイメージを良い意味で覆している印象です。実際の投球では、全体的なキャッチ力はSolidならではのもので、特にミッドレーンでの“ブレーキ感”はより安定しました。しかしそのブレーキ感が単なる減速に繋がるだけではなく、FLEX ZONE特有のスムーズな軸移動と連動することで、バックエンドにかけても動きがしっかりと持続していきます。“強くなったのに鈍くならない”——この絶妙なバランスこそが、本作最大の魅力と言えるでしょう。従来のHybridモデルでは、適度な走りからシャープすぎない動きを見せることで幅広いコンディションに対応してきましたが、今回のSolidではその“読みやすさ”がさらに向上しています。オイルの濃淡を的確に捉え、レーン中盤での挙動が非常に安定するため、ライン取りの基準を作りやすく、ゲームメイクの組み立てやアジャストにおいても大きな武器となるはず。またバックエンドでの動きも決して大人しいものではなく、Hybridをさらに上回る必要十分な入射角を確保しながらピンへ向かう力強さを持っています。急激に向きを変えるタイプではないものの、ポケットに向かって“押し込むような曲がり”を見せるため、ピンアクションにも安定感があり、結果としてスコアに直結しやすい性能に仕上がっているとと言えます。コンディションとしてはミディアム～ややオイリーな環境で特に真価を発揮し、これまでHybridではやや先の動きが不安定に感じられた場面でも、このSolidであればレーン全体を通して安心感のある投球が可能となるでしょう。

## 特記事項

**FLEX ZONE SOLID**は、“扱いやすさ”というシリーズの根幹を崩すことなく、キャッチと持続性を高い次元で両立させた進化形です。初動での状況把握から、そのままスコアメイクまで任せられる懐の深さは、まさに実戦で真価を発揮する一球と言えるでしょう。